

IV 学校教育の内容と 基本的な考え方

9 学校教育全体で進める教育活動

(6) 読書活動

基本的な考え方

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものであり、社会総がかりで推進を図っていくことが重要である。

京都府における読書 活動の取組

京都府では、京都府子どもの読書活動推進計画(第四次推進計画)をまとめ、以下に示された読書活動を推進している。

- 1 家庭における読書活動の推進
- 2 学校等における読書活動の推進
- 3 地域社会における読書活動の推進
- 4 効果的な読書活動の推進

また、京都府立図書館では、学校における探究型学習への支援として「学校支援セット」の貸出しや「来館型調べ学習」を行っている。

学校図書館の機能・ 役割

学校図書館は、児童生徒の読書指導の場である「読書センター」としての機能、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有している。学習指導要領では「学習の基盤となる資質・能力」として、言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力が挙げられているが、学校図書館はこれらの資質・能力をはぐくむ場としての機能がますます期待される。

さらに、児童生徒が生き生きとした学校生活を送れるようにするために、また、子どものストレスの高まりや、生徒指導上の諸問題への対応の観点からも、学校内に「心の居場所」としての機能を充実することが重要である。

《参考資料》

□「京都府子どもの読書活動推進計画（第四次推進計画）～読書ではぐくむ豊かな子どもの未来～」

(京都府教育委員会 令和2年3月)

□「学校図書館機能充実ガイドライン」（京都府教育委員会 平成27年1月）